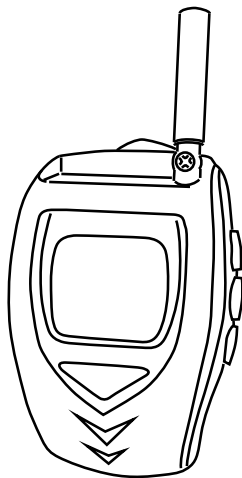


FIRSTEC

特定小電力トランシーバー FT-20W

取扱説明書



この度、FIRSTEC FT-20W をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、大切に保管していただき、その都度ご参照ください。

本機は、日本国内専用モデルですので、国外で使用することは出来ません。

目次

安全についてのお願い・ご注意.....	3
通話チャンネルについて	7
FT-20W の便利な機能	8
同梱品の確認	9
電池の取り付け	10
充電をする	10
イヤフォンマイクの取り付け	11
各部の名称	12
通話のしかた	13
電源オン・音量調節	13
チャンネルの選択	13
アンテナを立てる	13
通話をする	14
電源を切る	14
トランシーバーの便利な機能	15
チャンネルスキャン	15
キーロック	15
グループ機能	16
ハンズフリー機能 (VOX)	17
ベルコール機能	17
オートパワーオフ機能	18
コンパンダー機能	18
時計モード	19
日付を合わせる	19
時刻を合わせる	20
時計モードの様々な機能	20
ストップウォッチ	20
カウントダウンタイマー	21
アラーム	22
故障かなと思ったら	24
仕様	26

安全についてのお願い・ご注意

本機を安全にご使用いただくには、正しい使い方と安全に関する注意事項をお守り頂く必要があります。本書では、誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して説明しています。

 危険	この表示は、「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
 警告	この表示は、「人が死亡または重傷を負うことが想定される内容」を示しています。
 注意	この表示は、「人が傷害を負うことが想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

危険



可燃性ガスの発生する場所で使わない



引火、爆発の恐れがあるので、可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。



火の中に投入したり、加熱したり、はんだ付けなどしないでください。



液が目に入った時は、失明の恐れがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けて下さい。



液が皮膚や衣服に付着した時は、皮膚に傷害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。



電極をショートさせないでください。コインやヘアピン等の金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。

■ バッテリーの取り扱いについて



使用にあたり、指定のバッテリー以外は使用しないでください。液漏れ、発火、破裂させる原因となります。



充電温度範囲は5～40℃です。この温度範囲以外では、充電しないでください。



指定された充電器以外で充電しないでください。

警告

■ 使用環境・条件



交通安全上、運転しながらの
交信はお止めください。



電子機器、特に医療機器の近
くでは使用しないでくださ
い。



航空機内、空港敷地内、新幹
線車両内では、使用しない
でください。



海外では使用できません。



直射日光を避けて風通しのよ
い状態でご使用ください。



この製品は調整済みです。分
解・改造をしないでください。
火災・感電・故障の原因とな
ります。



充電端子をショートさせない
でください。

■ 充電機の取り扱いについて



AC100V 以外の電圧で使用し
ないでください。



タコ足配線はしないでくださ
い。加熱・発熱の原因になり
ます。



濡れた手で AC コードのプラ
グに触れたり、電源コードを
抜き差ししないでください。
感電の恐れがあります。



水をかけたり、水が入らない
ように使用してください。



長期間使用しない時は、バッ
テリーを本体から外して常温
で保管してください。

注意

■ 使用環境・条件



テレビ、ラジオ、ストーブ、電子レンジなどのそばで送信しないでください。



車内のダッシュボードやヒーターの吹き出し口など異常に温度が高くなる場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。



アンテナを誤って目に刺さないようにしてください。

■ 保守・点検



お手入れの際は、電源スイッチを切り、バッテリーを外して保管してください。



水滴が付いたら、乾いた布で拭き取って下さい。汚れのひどい場合は、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。

お客様または第三者が本製品の誤使用、誤設定、使用中に発生した故障、誤動作、不具合あるいは天災や停電等の外部的な要因によって、情報・通信等の機会を逸したために生じた損害等につきまして、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ご注意

電波法に関する注意

* 下記の内容は電波法により禁止されています。



本機裏面の技術適合証明ラベルをはがしての使用



本機を分解、改造しての不正使用



他人の通話を聞いてこれを人に漏らす行為



航空機など、使用を認められていないところでの使用

上記の内容をよく理解して、正しくご使用ください。

ご使用上の注意

- 本機は、特定小電力トランシーバー、9ch 機、11ch 機、20ch 機のトランシーバーと通話することが可能です。現在お持ちのトランシーバーでグループモードがないトランシーバーにおいては、本機のグループモードはオフでご使用ください。また、お手持ちのトランシーバーでグループモードがある場合でも、CTC グループモードにしか対応していないものがありますので、その際は、CTC グループで対応してください。
- 通話できる距離は、環境により大きく変わります。目安としまして、見晴らしの良い郊外で 500m ～ 1km、市街地で 50 ～ 100m です。建物などの障害物により通話距離が大きく左右します。
- 本機は防水構造になっておりません。雨の日や水がかかるようなところでの使用は、本体が濡れないように注意して使用してください。
- テレビ、ラジオ、パソコン、蛍光灯のすぐそばでは、電波障害を与えたり、受けたりすることがありますので、これらのものから離れて使用してください。

通話チャンネルについて

既に本機以外のトランシーバーをお持ちの場合、通話チャンネルを合わせることで、本機と交信することが可能です。

通話チャンネル適合表

本機および多数の 20ch 機	11ch 機	9ch 機	他表示タイプの 20ch 機
ch1	ch1		ch1
ch2	ch2		ch2
ch3	ch3		ch3
ch4	ch4		ch4
ch5	ch5		ch5
ch6	ch6		ch6
ch7	ch7		ch7
ch8	ch8		ch8
ch9	ch9		ch9
ch10	ch10		ch10
ch11	ch11		ch11
ch12		ch1	ch h1
ch13		ch2	ch h2
ch14		ch3	ch h3
ch15		ch4	ch h4
ch16		ch5	ch h5
ch17		ch6	ch h6
ch18		ch7	ch h7
ch19		ch8	ch h8
ch20		ch9	ch h9

FT-20W の便利な機能

- グループモード

仲間以外の混信を防ぐグループモード

- ハンズフリー機能

PTT を押さなくても、マイクに向かって話すだけで自動送信されます。

- チャンネルスキャン

通話中のチャンネルを自動的に探します。

- 時計機能

トランシーバーを使用しないときは時計として使用できます。

- オートパワーオフ

電池が少なくなると自動的にトランシーバーの電源が切れて時計モードになります。

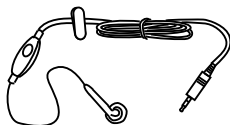
- 多彩なタイマー機能

ストップウォッチ、カウントダウンタイマー、アラームなど多彩な機能搭載

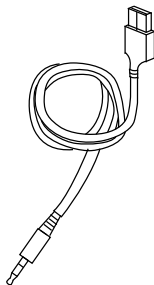
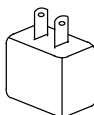
同梱品の確認



本体 x 2

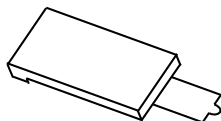


イヤフォンマイク x 2



充電器

(AC アダプター及び充電用ケーブル) x 2



バッテリー x 2

イヤフォンマイク、バッテリー、
充電器はオプションとしても販売
しています。

イヤフォンマイク : FT-20WEM

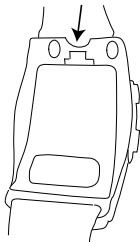
バッテリー : FT-20WBT

充電器 : FT-20WBC

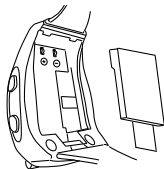
取扱説明書 x 1

電池の取り付け

1. 本体背面の電池カバーを外します。



2. 電池の向きに注意して電池を挿入します。



3. 電池カバーを取り付けます。

電池に関する注意

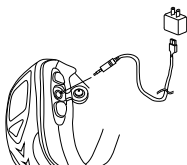
- ・ 火の中に投げ込まないでください。
- ・ ショート（短絡）、分解、加熱をしないでください。
- ・ 長時間使用しない時は、本体から取り出して保管してください。

充電をする

はじめて本機を使用されるときは充電をしてください。電池を入れた状態で、充電器のACアダプタとケーブルを接続してから本体と充電器のプラグを接続し、充電器をACコンセントに差し込んでください。

充電中は本体液晶部の下部が赤く点灯し、およそ3.5時間で満充電になります。充電が完了すると本体液晶部の赤い点灯が消えます。

充電が終わったら、本体及びコンセントから充電器を抜いてください。



使用時間の目安

トランシーバーモード：約15時間*

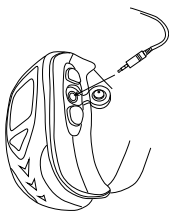
時計モード：約40日間**

* 新品付属電池満充電の状態で、低周波出力定格250mW、送信10秒、受信10秒、待受80秒の繰り返し動作

** 新品付属電池満充電の状態で、トランシーバーの電源がOFFの状態

イヤフォンマイクの取り付け

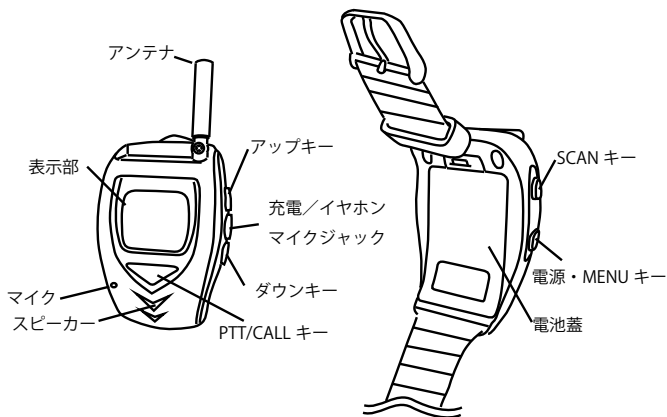
イヤフォンマイクを使用する場合、本体右横のゴムキャップを外し、イヤフォンマイクのプラグを差し込みます。



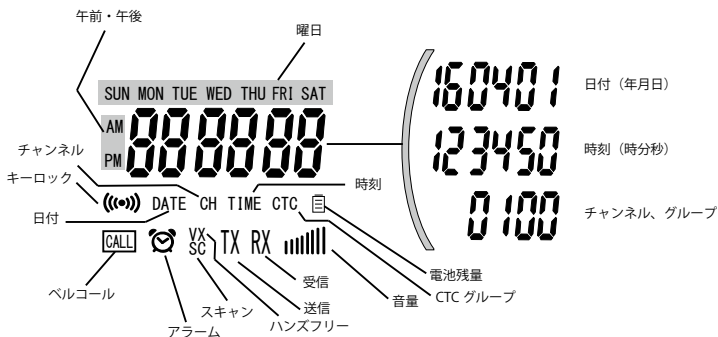
注意：ケーブルを強く引っ張ったり、可動部分に過大な力で操作しますと断線や破損の恐れがあります。

各部の名称

■本体



■表示部



■ 通話のしかた

相手側のトランシーバーと同一のチャンネルに合わせ、送信・受信を交互に切り替えながら通話します。まず、2台で通話テストを行ってください。

電源オン・音量調節

“電源・メニュー”キーを3秒以上押して電源を入れると、バックライトが点灯しチャンネルが約4秒間表示され、その後時計表示になります。

“UP/DOWN”キーで音量調整してください。音量は音量表示で確認できます。

注意：電源投入後にチャンネル表示が出ない場合は時計モードになっていますので、もう一度“電源・メニュー”キーを3秒以上押してトランシーバーの電源を入れてください。

トランシーバーモードでは、時計表示中に音量が表示されます。トランシーバーモードは電池の消費が早いので、ご注意ください。

チャンネルの選択

“電源・メニュー”キーを押すとチャンネル番号が点滅を始めます。チャンネルが点滅している間に“UP/DOWN”キーを押して希望のチャンネルを選択します。（“SCAN”キーで決定できますが、約10秒間放置しても表示中のチャンネルで決定されます）

9チャンネル機や11チャンネル機との交信は通話チャンネルについてのページを参照の上希望のチャンネルを選択してください。

アンテナを立てる

通話をするときにはアンテナを約90度起こして運用をしてください。

アンテナを立てなくても運用できますが、通話距離に影響が出やすくなります。



通話をする

“PTT” キーを押すと送信を開始します。送信すると LCD 表示部の TX アイコンが点灯します（送信中は LCD バックライトも点灯）。“PTT” を放すと TX アイコンが消灯し受信待受状態になります。

相手からの信号を受信すると、LCD 表示部の **RX** アイコンが点灯し受信を開始してスピーカーから相手の音声がかかります。

注意：

連続送信、連続通話ができるのは最大3分です。3分を超える連続送信、連続通話状態が続くと、自動的に送信または通話状態が切断されます。その場合2秒以上待ってから呼び出しや通話を開始してください。

電源を切る

トランシーバーに電源が入っているとき、待受状態で時刻表示と同時に音量表示が点灯しています。この時に“電源・メニュー”キーを3秒以上押し続けるとトランシーバーの電源が切れ、音量表示は消灯になり時刻表示のみ表示して時計モードへ移行します。

トランシーバーの便利な機能

チャンネルスキャン

通話しているチャンネルを自動的に探します。

1. “SCAN” キーを押すとチャンネルスキャンを開始します。スキャン中は使用中のチャンネルを探すために1～20チャンネルを順番に変化します。スキャンの方向は“UP/Down” キーで選択できます。



2. 受信中のチャンネルを見つけると一旦そのチャンネルでスキャンが停止し、受信が始まります。(グループが一致しないとスキャンは止まりません)

相手からの受信が終了後に“PTT”を押すと停止中のチャンネルで送信をして、通話を開始できます。

3. 受信または送信が終わり、待受状態が約5秒続くと再びチャンネルスキャンが開始されます。
4. チャンネルスキャンを終了するには、チャンネルスキャン中に“PTT”キーまたは、“電源・メニュー”キーまたは“スキャン”キーを押してください。スキャンが終了するとスキャンを開始したチャンネルに戻って待ち受け状態になります。

キーロック

間違えてキーを押さないように、キーをロックして操作禁止にすることができます。

キーロックをONにするには、“SCAN”キーを2秒以上押し続けてください。キーロック表示が点灯してキーロックが設定されます。キーロックを解除する場合、“SCAN”キーを2秒以上押し続けてください。キーロック表示が消灯してキーロックが解除されます。

注意：トランシーバーモードでキーロックが設定されている場合、“PTT”キーは動作しますが、“電源・メニュー”キー・“SCAN”キー、“UP/DOWN”キーは操作できません。キーロック中でも“電源・メニュー”キーの長押しでトランシーバーモードと時計モードの切り替えができます。

キーロックがオンの状態で時計モードに移行した場合、その後トランシーバーモードに移行した時には、キーロックがオンになっています。

グループ機能

同一チャンネルを使用しているも、グループを設定することで、同じグループ内の交信のみ可能となります。

通常グループ：01～38（CTC 表示あり）

DCS グループ：01～83（CTC 表示なし）

グループなし：00

【グループの設定方法】

1. “電源・メニュー” キーを2回押してグループ番号表示を点滅させます。



2. “UP/DOWN” キーで希望のグループを設定します。
3. “PTT” キーを押すと、表示されているグループ番号に決定されます。（約10秒間操作が無いと、自動的に表示されているグループに決定されます）

注意：

- グループ番号の異なる相手が送信しても音声は聞こえてきませんが、無線機は受信状態になります（RX アイコンが点灯）。その時に“PTT”スイッチを押しても送信禁止音が鳴り送信できません。受信状態を示す RX のアイコンが出ていない時に送信してください。
- グループ番号はチャンネルごとに設定できます。
- DCS グループは、他の機器では対応していないものがありますので、他の機器に DCS グループが無い場合は、CTC グループを使用してください。

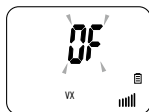
ハンズフリー機能 (VOX)

“PTT” キーを押さずにマイクに向かって話すだけで自動的に送信状態になり、通話を開始することができます。話をやめて約 2 秒間経過すると自動的に受信待受状態になります。

(話を止めても約 2 秒間送信は継続しています)

【VOX の設定方法】

1. “電源・メニュー” キーを 3 回押すと **VX** アイコンが表示され、**OF** または感度の設定数値 (1～3) の表示が点滅します。



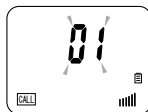
2. “UP/DOWN” キーで 1～3 または **OF** を選択してください。数字は入力音声の感度調整値を表しており、**1**：低感度、**2**：中感度、**3**：高感度となります (3 が一番音に反応しやすい)。ハンズフリー機能を使用しない時は、**OF** を選択してください。
3. “PTT” キーを押して決定します。

ベルコール機能

“PTT” キーを素早く 2 回押すとベルコール機能が働き、あらかじめ決めたコールトーンを送信して相手を呼び出します。呼び出し音は全部で 10 種類ありますので、あらかじめコールトーンを決めておけば、誰からの呼び出しかわかります。

【ベルコールの設定方法】

1. “電源・メニュー” キーを 4 回押すと **CALL** アイコンが点灯し、トーン番号が点滅します。



2. “UP/DOWN” キーでコールトーン番号を変えてトーンの種類を選択します (1～10)。
3. “PTT” キーを押して決定します。

オートパワーオフ機能

トランシーバーモードで電池容量が少なくなると送信ができなくなり、10秒に1回警告ビープが鳴ります。警告が鳴り始めてから約1分以内に充電が行われないと、自動的にトランシーバーの電源が切れて、時計モードへ移行します。

この状態になったらなるべく早く充電をしてください。

コンパンダー機能

コンパンダー機能を使うことで通信時のノイズを減少させます。

注意：同じ機種同士の通話時のみ有効な機能です。

【コンパンダーの設定方法】

1. “電源・メニュー”キーを5回押すとCPの表示がでて、現在設定されている状態（ON または OFF）が点滅をはじめます。



2. “UP/DOWN”キーでON または OF を選択します。
3. “PTT”キーを押して決定します。

時計モード

トランシーバーとして使用していないときは、時計モードにするとトランシーバーの電源が切れて電池の消耗を抑えることができます。時計のみで使用する満充電で約 40 日間使用可能です。

注意：電池が空になったり、電池が外された場合、日付や時刻の設定はリセットされますので、再度日時の設定をする必要があります。

・トランシーバーモードと時計モードの切り替え

“電源・メニュー” キーを 3 秒以上押し続けるとトランシーバーモードと時計モードが切り替わります。時計モードに切り替わると時刻表示になり（音量表示は消えます）“SCAN” キー、“PTT” キー、“UP/DOWN” キーを押しても何も反応しません。

（モードがトランシーバーモードに切り替わった後はチャンネルを約 5 秒間表示した後時計表示になります。）

時計機能の各種設定は時計モードの時にのみ行うことができます。

日付を合わせる

時計表示の時に“電源・メニュー” キーを押す（バックライトが約 10 秒間点灯）バックライトが点灯している間に再度“電源・メニュー” キーを押すと DATE 表示が約 3 秒間点灯します。DATE 表示が点灯している間に“SCAN” キーを押すと、「年」を表す左 2 桁が点滅を開始します。



“UP/DOWN” キーで「年」を表す西暦の下 2 桁（2016 年の場合「16」）を設定し“SCAN” キーを押して決定すると、次に「月」を表す中 2 桁が点滅を開始します。（“電源・メニュー” キーを押すと日付が決定され、点滅が点灯に変わって日付設定が終了します）

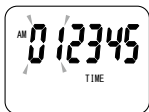
“UP/DOWN” キーで月を設定し“SCAN” キーを押して決定すると、次に「日」を表す右 2 桁が点滅を開始します。（“電源・メニュー” キーを押すと日付が決定され、点滅が点灯に変わって日付設定が終了します）

“UP/DOWN” キーで「日」を設定し“SCAN” キーまたは“電源・メニュー” キーを押すと日付が決定され、点滅が点灯に変わって日付設定が終了となります。

時刻を合わせる

時計表示中に“電源・メニュー”キーを押す（バックライトが約 10 秒間点灯）

バックライトが点灯している間に“電源・メニュー”キーを 2 回押すと TIME 表示が約 3 秒間点灯します。TIME 表示が点灯している間に“SCAN”キーを押すと、「時間」を表す左 2 桁が点滅を開始します。12 時間表示の時は AM/PM 表示が点灯します。



“UP/DOWN”キーで「時間」を設定し“SCAN”キーを押して決定すると、次に「分」を表す中 2 桁が点滅を開始します。（“電源・メニュー”キーを押すと時刻が決定され、点滅が点灯に変わって時刻設定が終了します）

“UP/DOWN”キーで「分」を設定し“SCAN”キーを押して決定すると、次に「秒」を表す右 2 桁が点滅を開始します。（“電源・メニュー”キーを押すと時刻が決定され、点滅が点灯に変わって時刻設定が終了します）

“UP・DOWN”キーで「秒」を設定し“SCAN”キーまたは“電源・メニュー”キーを押すと時刻が決定され、点滅が点灯に変わって時刻の設定が終了します。

■ 時計モードの様々な機能

ストップウォッチ

（100 分の 1 秒）

最大 99 分 99.99 秒までのストップウォッチ機能を使うことができます。

ストップウォッチ機能を使用するには、時計表示の時に“電源・メニュー”キーを押し（バックライトが約 10 秒間点灯）、さらにバックライトが点灯している間に“電源・メニュー”キーを 3 回押すと 6 桁の数字（初回は「000000」）が表示され、ストップウォッチ表示となります。

この 6 桁の表示は、左 2 桁が「分」、中 2 桁が「秒」、右 2 桁が「100 分の 1 秒」を表します。

ストップウォッチの操作

スタート・ストップ：PTT/CALL キー

リセット：UP/DOWN キー

カウントダウンタイマー

(最大 99 分 99.99 秒)

最大 99 分 99.99 秒までのカウントダウンタイマーが使えます。設定されたタイマーが 0 になるとアラームが鳴ります。

カウントダウンタイマーを使用するには、時計表示の時に“電源・メニュー”キーを押し（バックライトが約 10 秒間点灯）、さらにバックライトが点灯している間に“電源・メニュー”キーを 4 回押すと 6 桁の数字（初回は「000000」）が表示され TIME が点灯し、カウントダウンタイマー表示になります。



この 6 桁の表示は、左 2 桁が「分」、中 2 桁が「秒」、右 2 桁が「100 分の 1 秒」を表します。

カウントダウンタイマーの設定

“SCAN” キーを押すと「分」を表す左 2 桁が点滅を開始します。

“UP/DOWN” キーで「分」を設定し“SCAN” キーを押して決定すると、次に「秒」を表す中 2 桁が点滅を開始し

ます。（“電源・メニュー”キーを押すとタイマーが決定され、点滅が点灯に変わってカウントダウンタイマーの設定が終了します）

“UP/DOWN” キーで「秒」を設定し“SCAN” キーを押して決定すると、次に「100 分の 1 秒」を表す右 2 桁が点滅を開始します。（“電源・メニュー”キーを押すとタイマーが決定され、点滅が点灯に変わってカウントダウンタイマーの設定が終了します）

“UP/DOWN” キーで「100 分の 1 秒」を設定し“SCAN” キーまたは“電源・メニュー”キーを押すとカウントダウンタイマーが決定され、点滅が点灯に変わって設定が終了します。

カウントダウンタイマーの操作

スタート・ストップ：PTT/CALL キー

リセット：UP/DOWN キー

アラーム

設定した時間にアラームを鳴らすことができます。

アラーム機能を使用するには、時計表示の時に“電源・メニュー”キーを押し、(バックライトが約 10 秒間点灯)、さらにバックライトが点灯している間に“電源・メニュー”キーを 5 回押すとアラームアイコンと **TIME** が点灯します。この状態で“PTT/CALL”キーを押すと、アラーム時刻表示と **OF** 表示が切り替わります。アラームを使用したくないときは表示を **OF** にします。

アラーム時刻表示の時、左 2 桁が時間、中の 2 桁が分、右 2 桁が秒を表します。

アラーム時刻の設定

アラーム時刻が表示されている状態で“SCAN”キーを押すと「時間」を表す左 2 桁が点滅を開始します。

“UP/DOWN”キーで「時間」を設定し“SCAN”キーを押して決定すると、次に「分」を表す中 2 桁が点滅を開始します。(“電源・メニュー”キーを押すとタイマーが決定され、点滅が点灯に変わってアラーム時刻の設定が終了します)

“UP/DOWN”キーで「分」を設定し“SCAN”キーを押して決定すると、次に「秒」を表す右 2 桁が点滅を開始します。(“電源・メニュー”キーを押すとタイマーが決定され、点滅が点灯に変わってアラーム時刻の設定が終了します)

“UP/DOWN”キーで「秒」を設定し“SCAN”キーまたは“電源・メニュー”キーを押すとアラーム時刻が決定され、点滅が点灯に変わって設定が終了します。

アラームの操作

設定した時刻になるとアラームが鳴りだし、何も操作をしないと 1 分間鳴り続けます。

アラームを止めるには“PTT/CALL”キーを押してください。

12 時間 /24 時間表示の切り替え

時計表示を 12 時間表示か 24 時間表示に切り替えることができます。12 時間表示の時、午前は **AM** 午後は **PM** が表示されます。

12/24 時間表示の切り替えを行うには、時計表示の時に“電源・メニュー”キーを押し、(バックライトが約 10 秒間点灯)、さらにバックライトが点灯している間に“電源・メニュー”キーを 6 回押すと「**H 12**」または「**H 24**」が表示されます。この時に“SCAN”キーを押すと、**12** または **24** が点滅を開始しますので、**24** にしたいときは“UP”キー、**12** にしたいときは“DOWN”キーを押して 12/24 時間表示の切り替えを行います。

■ 故障かなと思ったら

もしも不具合が生じた場合、修理を依頼される前に下記の表により確認してください。該当する症状がない場合は、一旦バッテリーを外してリセット状態にしてください。

電源が入らない

● 電池が消耗している

⇒ 充電する。充電しても電源が入らない場合は、電池が寿命を迎えている可能性があります。電池寿命は充電回数で、およそ300～500回程度です。

受信できない

● チャンネル・グループが異なる

⇒ チャンネル・グループを合わせる

音が出ない

● ボリュームが絞られている

⇒ ボリュームを上げる。

● チャンネル・グループ番号が違う

⇒ チャンネル・グループ番号を合わせる

相手と通話できない

● チャンネルかグループ番号が違う

⇒ チャンネル、グループ番号を合わせる

● 相手との距離が離れすぎている

⇒ 通話可能な距離で使用する

送信できない

● 受信マークが点灯している

⇒ チャンネル番号を変更するか、RX アイコンが消えるのを待つ

何も聞こえないのに受信マークが点灯する

● 同じチャンネルで別のグループ番号を使用している
⇒ 別のチャンネルに変更する

音量を大きくすると、「プー」という音がする表示がすぐ消える

● 電池が消耗している
⇒ 電池を充電する

冬季電源を入れた直後画面が暗い

● 液晶画面の性質上、画面が温まるまでは暗い状態が続きます。

操作を受け付けない

● キーロックがかかっている
⇒ キーロックを解除する。

それでも動かない時は

〒 194-0035
東京都町田市忠生 4-11-8
株式会社エフ・アール・シー サービス課
TEL: 042-793-7746
土日祝日及び弊社休業日を除く
【10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00】

仕様

送受信周波数	422.050 ~ 422.175 MHz (12.5kHz 間隔 11 波) 422.200 ~ 422.300 MHz (12.5kHz 間隔 9 波)
電波形式	F3E、F2D
周波数安定度	± 2.5ppm 以下
受信感度	-7dB μ 以下 (12dB SINAD)
低周波出力	250mW 以下 @ 定格電圧 8 Ω 負荷 5% 歪
電源電圧	DC3.7V (充電式専用電池)
使用時間	約 15 時間 測定条件：新品の付属電池満充電の状態で、低周波出力定格 250mW、送信 10 秒、受信 10 秒、待受 80 秒の繰り返し動作
温湿度条件動作時	-10℃ ~ 50℃ (但し結露しないこと)
時計精度	月差 +/- 約 60 秒
サイズ (突起物を除く)	約 48 (幅) x 74 (縦) x 24 (液晶部高さ) mm
重量約	約 78g (専用電池を含む)
付属品	イヤホンマイク x 2 バッテリー x 2 充電器 (AC アダプター及び充電用ケーブル) x 2 取扱説明書 x 1

* 商品の仕様は改良のため予告なく変更する場合があります。

保証規定

本製品は、当社において厳重な品質管理のもとに検査され合格したものです。万一ご購入後1年以内に製造上の不備に起因する故障が生じた場合には、当社が責任を持って無償修理いたします。

尚、次に記載した場合の故障については、保証期間内であっても有償修理となります。

- ① 使用上の誤りや不当な修理、調整、改造による故障及びそれが原因で生じた故障及び損傷
- ② 御購入後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
- ③ 火災、地震、風水害、落雷、塩害、異常電圧、指定外の電源、電圧、周波数使用および、その他の天変地異などによる故障及び傷害
- ④ 本保証書のご提示が無い場合
- ⑤ 本保証書の所定事項が未記入、あるいは字句が書き換えられた場合
- ⑥ 製造番号の改変もしくは取り外した製品
- ⑦ 消耗部品（充電機、イヤホンマイク等）（注）

*本保証書は、日本国内においてのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)

（注）イヤホンマイクの保証期間は、正常な状態での使用中に製造上の不備に起因する故障が発生した場合、御購入後、1ヶ月となります。

修理を依頼される前に、電池の充電状態及び操作方法に間違いはないか、「故障かな?と思ったら」（24 - 25 ページ）を参照して、それでも異常があるときは修理依頼してください。

さらに、お客様が設定したデータをお控えください。修理内容によっては、全てのデータが削除される場合があります。

本機の不具合での通話不能などにより発生した損害、被害につきましては弊社は一切の責任を負いませんので、ご了承ください。

■保証期間中は：

保証書を添えて、お買い求めの販売店までご持参願います。

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

■保証期間が過ぎている時は：

お買い求めの販売店にご相談ください。

修理により製品の機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

品質保証書

本製品は、当社において厳重な品質管理のもとに検査され、それに合格したものです。万一、御購入後1年以内に製造上の不備に起因する故障が生じた場合には、保証規定に沿って、当社が責任を持って無償修理いたします。

修理の際には、本製品をご購入いただいた販売店に、必ず本保証書をご持参のうえ、ご依頼ください。本保証書のご提示の無い場合には全額有償となりますので、本保証書は大切に保存してください。本製品は持込修理となります。

尚、イヤホンマイクに関しては、保証期間は御購入後1カ月となります。(正常な状態での使用中に製造上の不備に起因する故障が発生した場合)

商品名	特定小電力トランシーバー FT-20W		
保証期間	1年間	購入年月日	年 月 日
お客様	ご住所 TEL お名前		
販売店	住所 店名 (印)		

本保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

お客様へのお願い

お手数ですがご住所、お名前、電話番号をご記入ください。

ご販売店様へ

お買い上げ日、貴店名、住所、電話番号を記入のうえ、本保証書をお客様にお渡しください。

株式会社 エフ・アール・シー

〒194-0035 東京都町田市忠生 4-11-8

URL: <http://www.frc-net.co.jp>

F.R.C. CO., LTD.



4-129-001

Printed in China